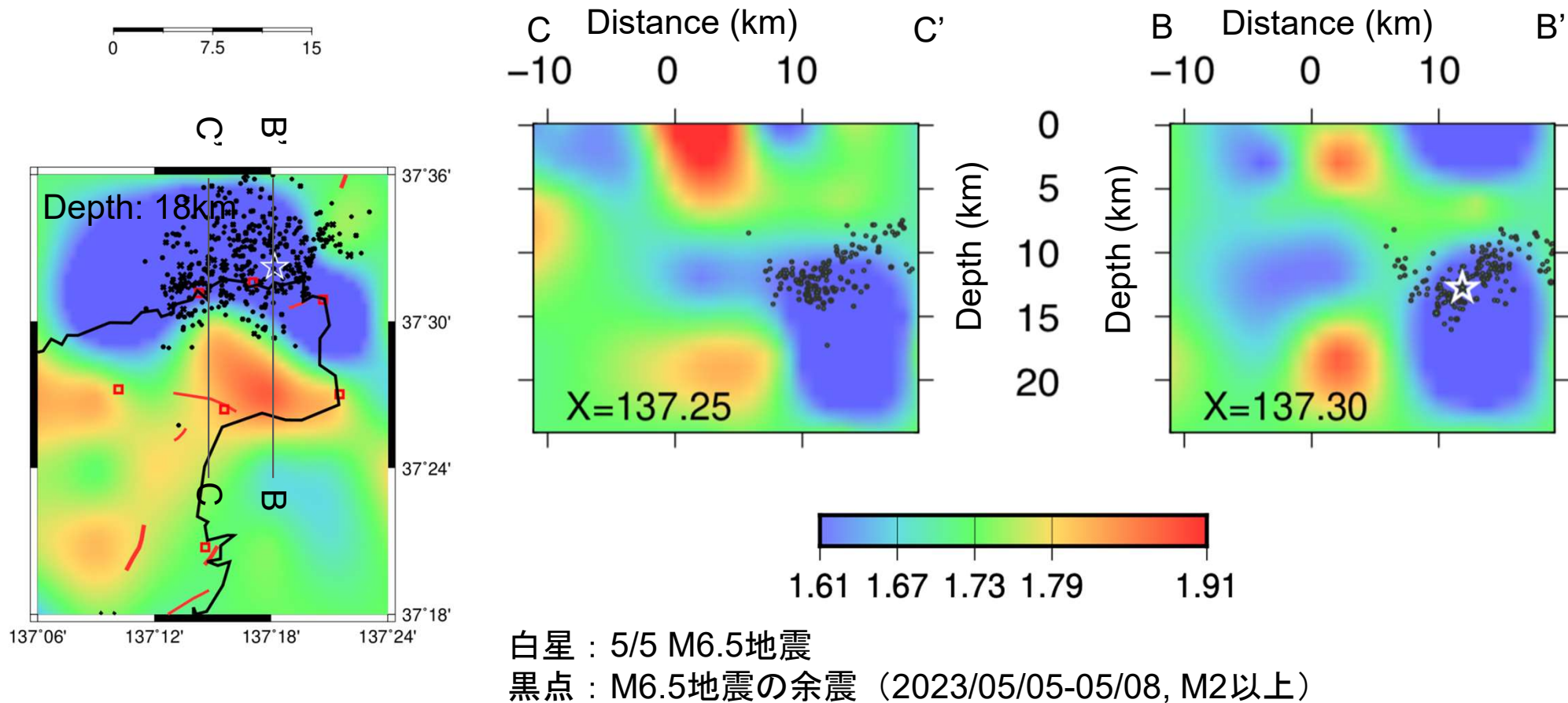
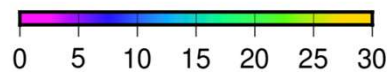
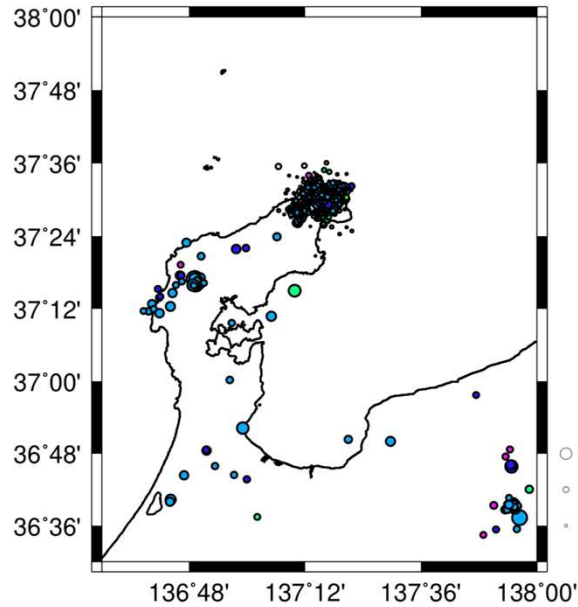


臨時地震観測データを用いたVp/Vs構造とM6.5地震との比較

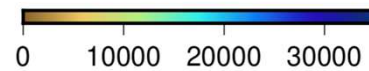
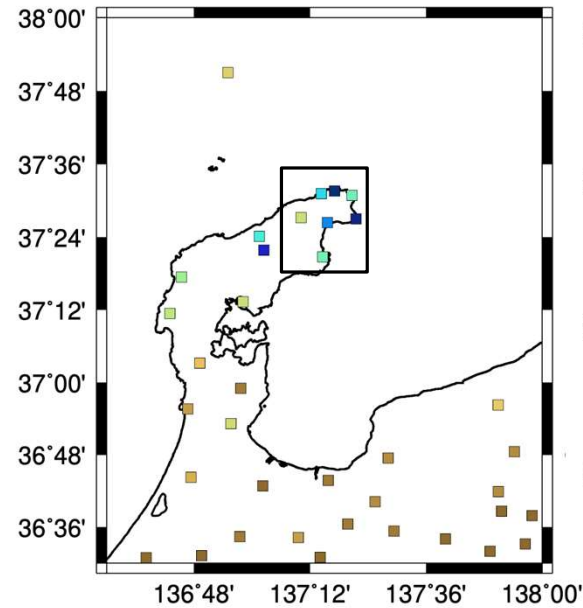


今回のM6.5地震の震源域付近は低Vp/Vs（長期的な流体移動に伴う石英の濃集域？），その南側深部は高Vp/Vsの領域(カルデラ深部のマフィックな岩石+高間隙水分布域？)。今回の地震およびこれまでの群発的な地震活動と流体との関わりを示唆。

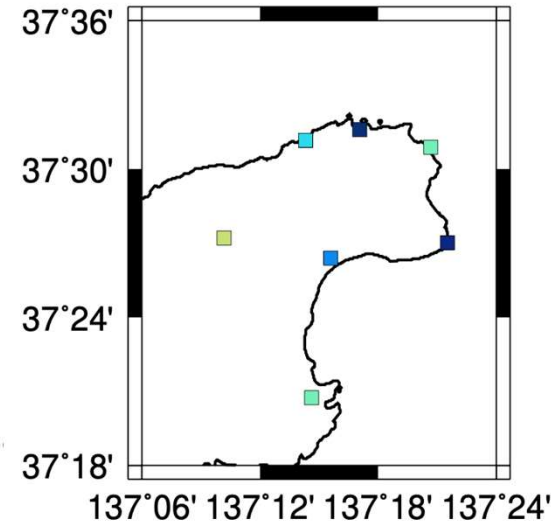
トモグラフィ解析に使用した地震・観測点分布



震源深さ (km)



S波の直達・相対走時個数



左図拡大

方法 :

Double-difference tomography
(Zhang and Thurber, 2003, 2006)

地震 : 2543 (2020.01-2022.08)

stations = 37

catalog P dtimes = 295272

catalog S dtimes = 325191

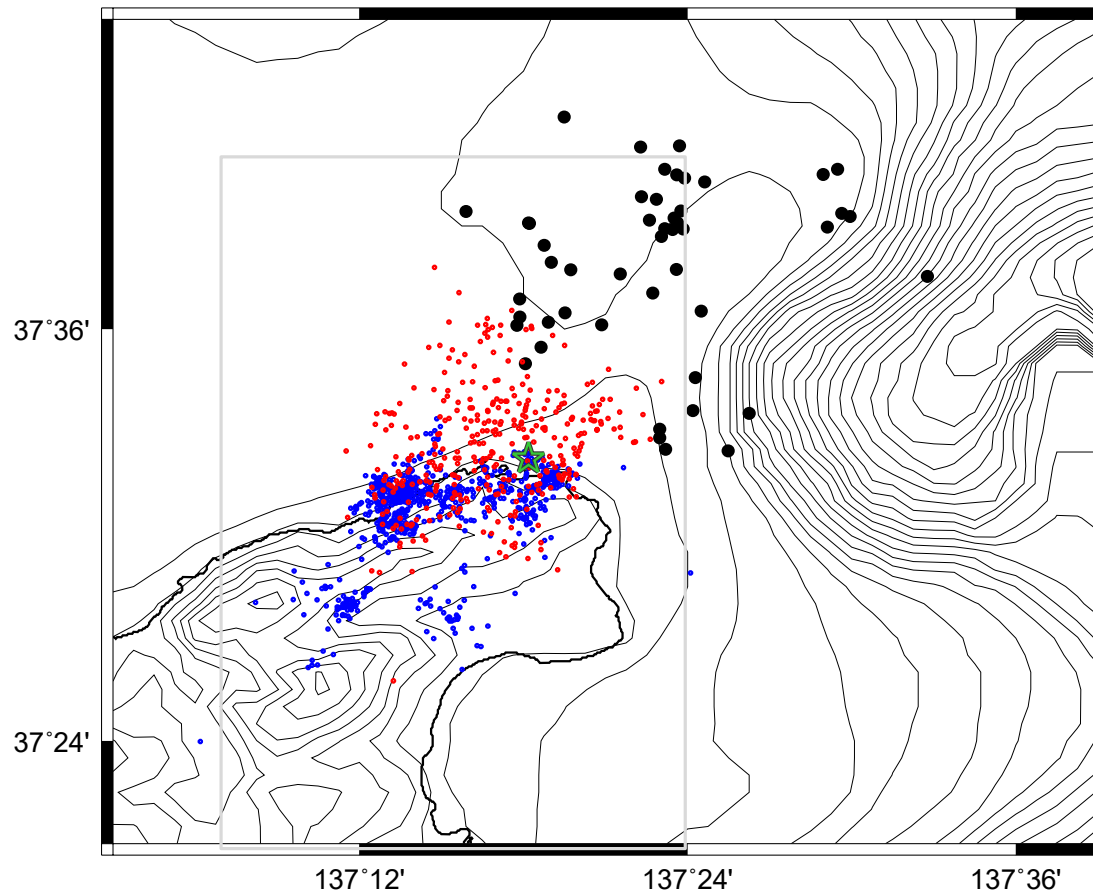
Absolute catalog P travel times = 28906

Absolute catalog S travel times = 31589

Arrival time picking: JMA and automated system

(Horiuchi et al.), only catalog arriv. times were used.

1993年能登半島沖地震余震分布との比較



黒：佃・他, 1994 (東大地震研彙報)
(期間 1993/02/07 ~ 1993/05/08、
M3.5以上)

青：本研究による震源 (薄い四角内)
(2020/1/1~M6.5地震前、M2.0以上)

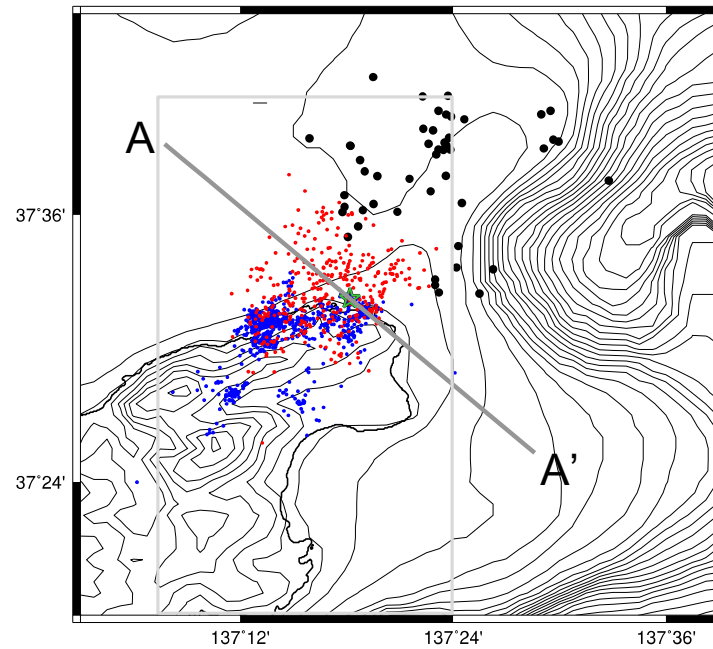
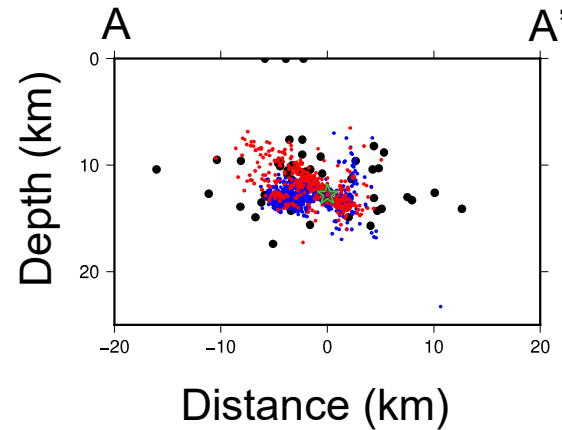
赤：本研究による震源
(M6.5地震後、M2.0以上)

緑星：2023/05/05 M6.5

コンターは50m間隔の標高・等深度線

1993年 能登半島沖 地震： 余震分布と の比較

補足



黒：佃・他, 1994 (東大地震研彙報)
(期間 1993/02/07 ~ 1993/05/08、
M3.5以上)

青：本研究による震源 (薄い四角内)
(2020/1/1~M6.5地震前、M2.0以上)

赤：本研究による震源
(M6.5地震後、M2.0以上)

緑星：2023/05/05 M6.5

コンターは50m間隔の標高・等深度線